

第1回 建築積算の基本(1)

1. 基本はこれだけ！

積算の基本は、材料に材料費を掛ける ということ。

図面を読んで、どの材料がどのくらい必要か考えます。この作業を「数量拾い」といいます。

そして、拾った数量にそれぞれの材料費を掛けていきます。材料費のことを「単価」と言います。

「数量」に「単価」を掛けることを「値入れ」といいます。

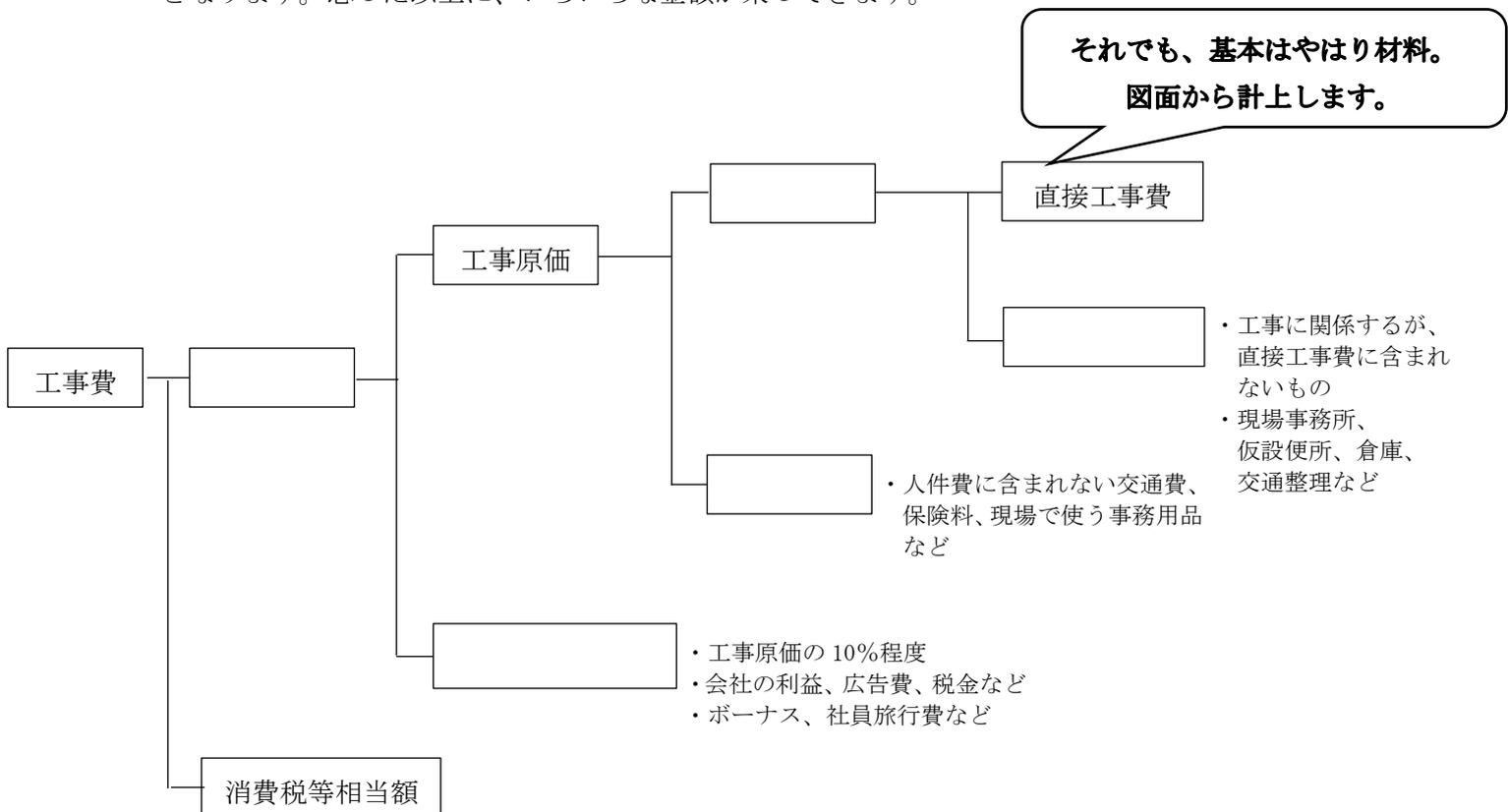
でもそれだけでは、赤字です。他にも工事費に入れなければならないことがあり、それにはルールがあります。では、工事費はどのような構成になっているのか、教科書を参考にしてみましょう。

2. 工事費の構成(教科書 P8、9「1・2 工事費の構成」)

教科書を見ながら、工事費の構成記入して下さい。

工事費を決めるのは、材料費だけではない！！大工さんや交通整理員の人件費も必要です。

さらに、保険や見積書のコピー用紙なども経費のうち。それに利益率を掛けて、最終的に工事費となります。思った以上に、いろいろな金額が乗ってきます。



3. 数量の種類について(教科書 P14、15)

数量と一口に言っても、図面のとおり拾えばいいもの、図面には書いていないので自分で決めて拾うものなど、内容は様々です。大きく分けると、3種類に分けられます。

それぞれの数量はどんなものか、教科書を参考にまとめて下さい。
また、それらの数量には具体的にどのようなものがあるのか、教科書を参考に考えて下さい。

① 設計数量

どんな数量ですか？
該当する工種は？

② 所要数量

どんな数量ですか？
該当する工種は？

③ 計画数量

どんな数量ですか？
該当する工種は？